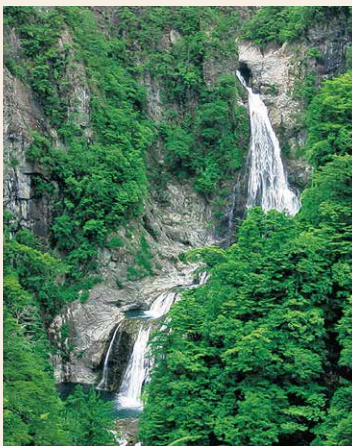




## 明神池の大蛇

### 前鬼・不動七重の滝 (日本の滝百選)

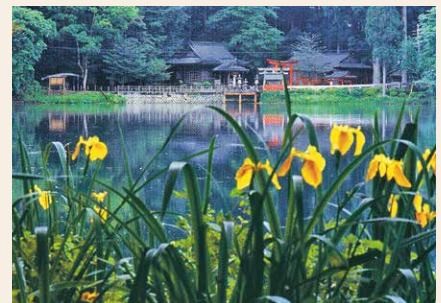


前鬼川の流れが水しぶきを上げながら滝壺に落ちていく。その姿を、七重の滝遊歩道から眼前で楽しめる。初夏もさることながら秋の紅葉も圧巻。

吉野山への入口ともいうべき上市から、南へ、鬱蒼たる緑に覆われた山また山を奥へ奥へと分け入る。国道一六九号を車で走ること、約二時間。やがて、山が途切れたあたりに静かな山里が見えた。吉野郡下北山村。雄大な自然の中の爽やかな高原の地で、鳥のさえずりも聞こえる。

東に大台ヶ原山地、西に大峰山脈が連なる。大峰山脈は、山岳信仰を原点とする修験道の山。修験者(行者)は、吉野山から熊野までの峻巖

### 明神池と池神社



明神池と池をご神体とする池神社。神に怒りがある時は池の水が社苑を浸すと伝えられる。池の周囲には1キロの遊歩道が整備され、森林浴が楽しめる。

な峰々を踏破する。釈迦ヶ岳、孔雀岳、仏生嶽の標高、約一八〇〇メートル。険しい道を歩き、絶壁をよじ登り、滝に打たれて荒行を重ね、大自然への畏怖と崇敬の念を体感しながら、行者は能力や呪力を得てゆく。

開祖は文武天皇の時代(七世紀後半)に活躍したとされる役行者。下北山村は、その修験道の山の麓にある。昔、その役行者が大峰山に入った。大蛇が現れ、行者はこれを高下駄で三つに踏み切り、錫杖ではね飛ばした。頭は熊野の有馬の池に、胴は北山の明神池に、尾は奈良の猿沢池に落ちた。そこで、有馬の池、猿沢池ではもちろんだが、ここ明神池でも不思議なことがあった。

ある時、物好きな男が、池に船釣を投げ込むと龍が出現すると聞き、

船釘一貫匁(約4kg)を投げ入れた。すると、物凄い黒雲、雷鳴とともに池の中から大蛇が現れ天に昇った。男は気を失い、倒れたということだ。ところで、役行者の高弟で従者として知られる前鬼、後鬼。二人は夫婦で、五鬼とよばれる五人の子供に恵まれた。鬼といっても呪力の優れた人のことであろう。

「前鬼」の地名が下北山村にある。前鬼川の清流近く、深山幽谷のこの地で、今もその子孫が、修行中の行者のために食事や宿泊の世話をする宿坊を守っている。今の五鬼助義之さんは、六十一代目。

まさに気の遠くなるような話だが、奈良には一三〇〇年、いやさらに古い歴史が今も脈々と息づいている。遠い昔話のような、現代のお話！

### 「明神池」へは...

大和上市駅からバス。湯盛温泉杉の湯(乗換)→池原(乗換)→池峰下車。

物語の場所を訪れよう



下北山村産業建設課 ☎07468-6-0016

奈良の魅力映像 BOX 下北山村・前鬼の里

検索